

## 第2分科会

### 探究的な学びの可能性を広げる連携と協働の「モヤモヤ」

— 中・高・大、それぞれの立場から見える外部連携の課題とヒントを探る —

[ 報 告 者 ] 長谷川夕起 (京都橘中学校・高等学校 探究学習コーディネーター主任)  
[ 報 告 者 ] 沼田 和也 (同志社中学校・高等学校 中学教頭)  
[ コーディネーター ] 滋野 正道 (龍谷大学 心理学部 講師)

中・高・大の三者が、それぞれの立場から探究的な学びを進める中で直面する、外部との連携や協働をコーディネートする際の「モヤモヤ」を共有する。授業運営の工夫や課題、外部連携における役割や持続性、越境的な協働のあり方について視点を提示し、フロアとも議論を深める。最終的には、それぞれの現場で活かせる具体的なヒントや方策を持ち帰れるようなセッションを目指す。

#### 概 略

本分科会では、中学校・高等学校・大学という異なる教育段階の立場から、探究的な学びを推進する中で生じる外部連携・協働に関する「モヤモヤ」を共有し、その背景や構造を捉え直すことを目的として実施された。

冒頭では、参加者同士によるチェックインを通じて、それぞれが抱える課題や期待を可視化した。その後、京都橘中学校・高等学校の長谷川夕起氏より、探究を学校の軸に据えた実践事例が紹介された。インタビュー学習、チェンジメーカープロジェクト、PBL型研修旅行など、多様な外部連携の取り組みが進む一方で、伝達不足や期待値のズレ、ボランティアになりがちな関係性といった「対校外」の課題、また大規模校における浸透の難しさや教科との接続、体制づくりといった「対校内」の課題が率直に語られた。

続いて、同志社中学校・高等学校の沼田和也氏からは、「世代と立場を越えて学びを編みなおす」という視点のもと、授業と正課外活動を往還する「学びプロジェクト」の実践が紹介された。「すぐき漬けプロジェクト」をはじめとする事例では、社会課題や地域課題を起点に、教員・生徒・地域・国内外の多様な人々が関わり合いながら学びが展開されていくプロセスが示された。そこでは、成果や評価を目的化せず、小さく始め、偶然の出会いや対話を大切にしながら学びを育てていく姿勢が強調された。

#### 全体討論の内容

全体討論では、話題提供を受けてグループごとのディスカッションが行われ、現場に即した具体的な質問や意見が多数出された。

特に多く挙がったのは、外部連携を担う「あいだ的な存在」の必要性である。社会との接点をつくる役割を誰が担うのか、教員や職員が通常の役割をどこまで越えて関わるのか、その際に生じる負担や葛藤について議論が交わされた。また、公立校における異動の問題や、引き継ぎ資料の重要性

など、持続可能性に関する問いも多く共有された。

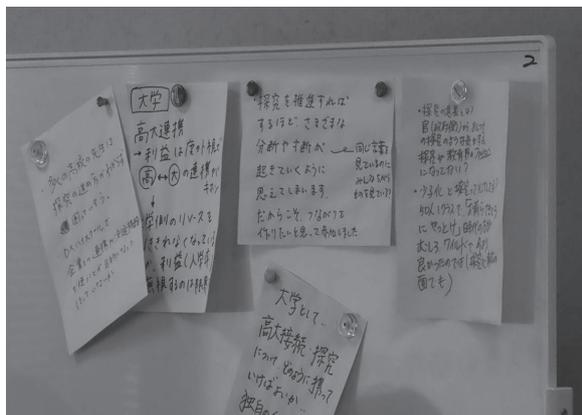
さらに、「子どものため」という目的が強調されすぎること、教員自身が犠牲を強いられてしまう構造への違和感も示された。探究や外部連携を続けるためには、教員自身が楽しさや手応えを感じられること、個人の熱量をどのように組織へと接続していくかが重要であるという認識が共有された。

討論を通して、探究的な学びは授業か正課外かという二項対立で捉えるものではなく、両者を往還しながら編み直していく営みであることが再確認された。

## 到達点と今後の課題

本分科会の到達点として、外部連携や探究的な学びにおいて生じる「モヤモヤ」を、個人の悩みや失敗として抱え込むのではなく、共有し、言語化することで次の実践につなげる視点が確認されたことが挙げられる。特に「終わってしまうこと」や「続かないこと」を否定せず、その時々条件や関係性に応じて学びの形を更新していく姿勢の重要性が共有された。一方で今後の課題としては、外部連携を教員個人の努力に依存させないための組織的な位置づけ、引き継ぎや制度設計の工夫、そして金銭的・時間的な持続可能性をどう確保するかが挙げられる。また、探究的な学びを特別な活動として切り離すのではなく、授業の持つ力を再評価しながら、より多くの生徒が関われる形で埋め込んでいくことも重要な論点である。

本分科会での議論を踏まえ、今後も中・高・大それぞれの立場を越えた対話と協働を通して、探究的な学びの可能性を広げていくことが期待される。



スライド 1

第2分科会

**探究的な学びの可能性を広げる連携と協働の「モヤモヤ」**  
— 中・高・大、それぞれの立場から見える外部連携の課題とヒントを探る —

○報告者  
長谷川夕起氏 (京都橋中学校・高等学校 探究学習コーディネーター主任)  
沼田 和也氏 (同志社中学校・高等学校 中学教頭)

○コーディネーター  
滋野 正道氏 (龍谷大学 心理学部 講師)

スライド 2

本分科会のねらい

- 中・高・大の三者が、それぞれの立場から探究的な学びを進める中で直面する、外部との連携や協働をコーディネートする際の「モヤモヤ」を共有する。
- 授業運営の工夫や課題、外部連携における役割や持続性、越境的な協働のあり方について視点を提示し、フロアとも議論を深める。
- 最終的には、それぞれの現場で活かせる具体的なヒントや方策を持ち帰れるようなセッションを目指す。

スライド 3

事前打ち合わせで語られた様々な「モヤモヤ」

1. 現場から見える“スタート地点の違い”について(授業 / 課外)
2. 探究で起きる「生徒の動き」のリアリティ
3. 外部連携における調整・連続性の課題(意図を共有できるか)
4. 金銭的仕組みと持続性の話
5. 学年全体で「しっかりやらせる」ことを目指すと破綻する？

**ヒト** 、**モノ** 、**カネ** 

⚠️ 盛大な愚痴大会にならないようにしたいですね

スライド 4

**滋野 正道** Shigeno Masamichi

龍谷大学心理学部特任講師 (実務家)

- キャリアデザイン論 / コミュニティ (と心理学)

一般社団法人ココカラスタジオ理事

- 社会教育からまちづくり / 高校の探究サポート / マイプロジェクト

【関心ごと】

コミュニティデザイン (農村の地域自治 / 災害復興 / 若者の地域参画・協働 / 探究 / PBL)

キャリアデザイン (生き方、あり方 / 社会連携 / 企業連携)

【キャリア】

佛教大学社会学部 → 龍谷大学大学院政策学研究所 → 休学 → 代表取締役 → 集落支援員  
→ 大学コーディネーター (文) → 非常勤講師 (文 / 政策 / 経済) → 大学特任教員 (実務家)

第2分科会

スライド 5

話題提供①

○報告者  
**長谷川 夕起氏**  
京都橋中学校・高等学校 探究学習コーディネーター主任

(事前打合せでの小話)

- 生徒あるある「足し算はやって、引き算はしない」
- 学年全体でしっかりするをしようとするとできない。
- せっかくある授業を如何に有意義な時間とするか。
- モヤモヤ語り出すと語りきれません！

スライド 6

話題提供②

○報告者  
**沼田 和也氏**  
同志社中学校・高等学校 中学教頭

(事前打合せでの小話)

- 学校の授業に取めないといけなからモヤモヤ？
- 私の話は学校の授業を否定していくところから始まっていくんですが…
- ソーシャルイノベーション起こすために有志を募る
- 熱量と時間量の調整が難しい。授業のシステムはずごい！



スライド 7

第23回高大連携教育フォーラム 【第2期】第2分科会

今年度  
1学期の外部協力者数

# 50名以上

(※延べ数、中高の取り組みの合計)

スライド 8

第23回高大連携教育フォーラム 【第2期】第2分科会

具体的な取り組み  
【中学校】

コミュニケーション力向上講座  
3年かけてコミュニケーション力の向上を図る講座（今年度初の取組）

生徒数	285名
協力企業数	3社(1学年1社)

※ 今年度 実績

インタビューをしよう(中2)

自分の価値観を探るヒントを得るために、様々な大人にインタビューをする。

生徒数	100名
協力者数	10名

※ 今年度 実績

スライド 9

第23回高大連携教育フォーラム 【第2期】第2分科会

具体的な取り組み  
【中学校】

チェンジメーカープロジェクト(中3)

「チェンジメーカーになる」をコンセプトに、京都市内の企業から課題やプロジェクトテーマをいただいてその解決策を提案する

【協体制度（今年度）】

生徒数	83名
協力事業者様数	11社
関わっていただく頻度	5回 (来校4回、訪問1回)

＜ミッション（一部紹介）＞  
 ✓ まだ障害を持つ方（就労支援事業所）と仕事をしたことがない方（企業、地域のの方々）へのアピール方法と内容を考えよう！（就労支援センター）  
 ✓ 布おしぼりの新しい名称を考えよう！（おしぼりレンタル事業）  
 ✓ 未発表作品『×××』を世界中の人に知ってもらえるようなプロモーションアイデアを考えよう！（ゲーム企画）

スライド 10

第23回高大連携教育フォーラム 【第2期】第2分科会

具体的な取り組み  
【高校】

PBL型研修旅行(高1)

探究×研修旅行として、外部企業に委託。訪問地域の事業者様に対して、事業課題の解決策を提案する。約1年間、企業ならびに大学生メンターが伴走

市場調査

生徒数	335名
協力事業者数	13
大学生メンター	13名以上

※ 昨年度の実績

販売会  
企業調べ  
担当企業訪問（見学）  
打ち合わせ  
提案会

スライド 11

第23回高大連携教育フォーラム 【第2期】第2分科会

具体的な取り組み  
【高校】

※ 今年度 実績

生徒数	335名
講評者数	18名

マイプロ型探究活動(高校2年生)

中間報告会において、外部から講評者から活動促進のための講評をいただく。  
(その他、自分たちの活動において、外部協力者に自らアプローチ)

マイプロ型探究活動(高校3年生)

本気の大人による「これまでの人生」の講演会を実施

生徒数	368名
講評者数	28名(2日間・延べ数)

※ 今年度 実績

スライド 12

第23回高大連携教育フォーラム 【第2期】第2分科会

感じている  
モヤモヤ①  
～対 校外～

自分の常識・当たり前(ここまではやるでしょ)をいかに排除して、伝えられるか。理解していただくか

- ✓ 伝達不足・コミュニケーションエラー
- ✓ 「思ったんと違う…！」
- ✓ ボランティアになりがち。

金銭以外の対価をいかに提供できるか

### スライド 13

第236回高大連携教育フォーラム 【第2部】第2分科会

**感じている  
モヤモヤ②  
～対 校内～**



- ✓ 大規模校での進め方・浸透のさせ方
- ✓ 外部で学んだこと・日常の学びの橋掛け  
(教科横断型の学びの仕掛けづくり)
- ✓ 体制の組み方  
(教員の主体性を奪ってない…?)
- ✓ 自分の役割

### スライド 14

第236回高大連携教育フォーラム 【第2部】第2分科会

**基本スタンス**

- 現場によって課題・モヤモヤはあって当たり前
- うまくいかないのが当たり前
- 今あるリソースで最大値を狙うにはどうしたらいいか
- 考えて実行に移すのみ

### スライド 15

第236回高大連携教育フォーラム 【第2部】第2分科会

**ご清聴ありがとうございました。**

ご意見・ご質問などいつでもお寄せください。  
京都橘中学校・高等学校  
探究学習コーディネーター主任  
長谷川 夕起  
yu.hasegawa@tachibana-hs.jp

スライド 1

発表スライド 高大連:コンソーシアム京都

**世代と立場を越えて学びを編みなおす  
-すぎ濱けプロジェクトを中心に-**



沼田 和也 (同志社中学校 2025.12.06)

スライド 2

**自己紹介**

勤務先 同志社中学  
 教科 技術科  
 役職 長期計画委員会委員長・教頭

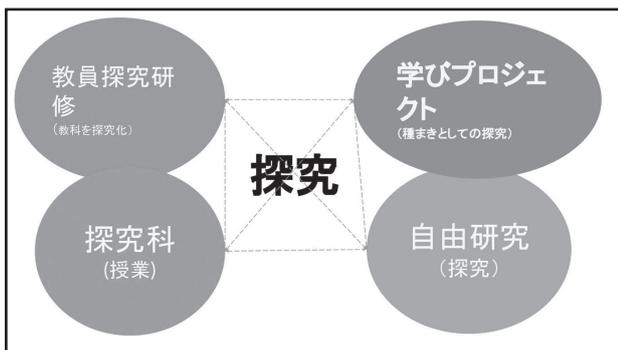
所属 大阪工業大学 (非常勤)、土木学会、  
 技術教育研究会、個性化教育学会、  
 子どもの遊びと手の労働研究会、  
 産業技術教育学会

学内:新しい放課後の提案としての「学びプロジェクト」の試作を 12  
 年前より続けている。  
 学外:アジアを中心にものづくりや科学技術をきっかけにして国際  
 交流をつけている。アボなしの飛び込み営業に可能性を感じて  
 いる。自分の等身大の人脈で手作りで。



↑書いてきたもののリンク集  
<https://sites.google.com/doshisha-is.ed.jp/knumata/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

スライド 3



スライド 4

**考えていること**

- 【ヒト】いかにつながりをつくるか
- 【モノ】教材、題材をつなげる
- 【コト】正課・正課外でモノとヒトが出会う
- 【カネ】助成金、個人支払い

【モヤモヤ】費用、熱量×予定、参加×純粋

**「学校教育といえば授業」とは限らない  
 授業が学校のゴールではない  
 「探究」風の取り組み**

第2分科会

スライド 5

【個人活動】



Asia STEAM Camp

米国、豪州、アジア中心  
 アボなし飛び込み営業  
 →虎の巻はごちら  
 英語以外の営業が大変

スライド 6

【個人活動】



同志社中学校  
 学Liゴジェロ  
 国際ロボット  
 コンテスト  
 Report

**国や言葉を越えて、  
 共に考え、共に作るヨ!**

Robo STEAM 2016 in Doshisha

スライド 7

【個人活動】



Model United Nations



模範国連がスピーカーとしてニューデリーへ



ある国の代表となり、発言する(紛争地域における女性と子どもの権利、エネルギー問題など)



元インドの大使、ナイジェリアのジャーナリスト、日本の教員

スライド 8

学会で知り合った Daniel 博士のおかげで、東海岸の大学と交流



Harvard University



MIT

International STEM Project 5

INTERNATIONAL STEM PROJECT 3



Daniel 博士 (Harvard 大学) のサイエンスデモンストレーション



Robotics workshop at MIT museum

exhibition2 exhibition laboratory Museum MIT Museum MIT building

スライド 9

Uganda Cereal Bar Project

つながりを設計  
NGO、政府、民間、研究をつなぐ



- 1 知ること → オンラインツアー  
JICA, Torch, AAH, 同志社大学文芸部, 同志社中学
- 2 知ること → 学校、習民、現地
- 3 知ること → 農家の専門家より講演 (JICA 京本さん)

Travel Beyond Bars  
オンライン旅行とリアルバーで解る旅日記

リアルバーで自活できるビジネスを展開できるか?

JICA の職員の方のプレゼン資料

スライド 10

MCL お米クラファン Project

如何にしてつながるアイデアを打てるか?  
自活できる MCL > 補助金



- 1 知ること → シンダネー子ども図書館の取組「なごこころみんぐ」
- 2 知ること → 児童文学作家松居さんの講演
- 2 知ること → 西村さんの講演

クラファンで水田を獲得したい?  
MCL + 中学生のソーシャルムーブメント  
知名度アップ (コンテスト、マスコミ、SNS で露出する)  
MCL を深いレベルで理解する試み (読み書き、絵本作り、...) 農業実習で体を通してわかることにより、本物の想像力と共感力 (栽培実習)

スライド 11

Precious Plastic



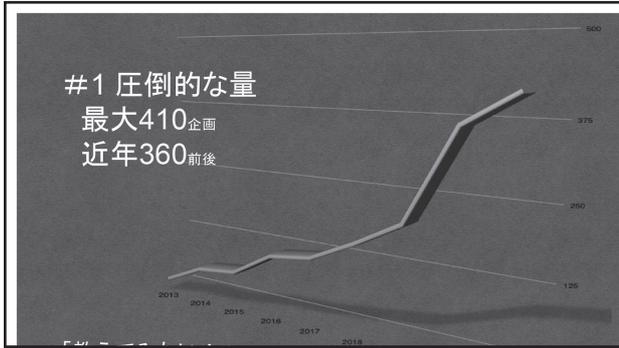
プラスチックゴミが資源に変わる!

スライド 12



<https://jhs.js.doshisha.ac.jp/learning/manabiproject/>

スライド 13



スライド 14

A 教職員から生徒へ提供

スライド 15

#2 実社会の本物の人々につながる

「失敗を恐れて動き出すのが怖い時もあるけれど最初から成功しようと思わず、失敗を大切に失敗から何かを学ぼうという姿勢が大切で、成功しようなんて思わなくていいと思わせてくれるお話で、とても印象に残りました。」(Toyao)

スライド 16

第2分科会

スライド 17

スライド 18

スライド 19

C 立場や国境を超えて交流

ウクライナからやってきた INNAさん  
渋谷:文化村通り



11/1(火) 19:00  
8月に日本に避難してこられました。日本人と話したことがほとんどなく緊張してらっしゃいます。緊張を和らげる意味で、ZOOMはカメラオンで参加してください。(20分)

スライド 20

D 生徒から内容をリクエスト

- ・ハングル講座があって、なんで中国語がないんですか？！
- ・たいだいこの学校は、環境問題に対するコンテンツが少なすぎます！！
- ・なんで1年生には発表の機会がないんですか！！

オンライン国際交流 with 台湾



TAM-KANG HIGH SCHOOL

スライド 21

ヘブライ語

いそべ けいと

לך לך יום יום

スライド 22

F 生徒から生徒へ学びを広げる



講師をやった生徒の気づきnote

「僕は実は学びプロジェクトに参加したことがありませんでした。なのに自分で参加する前に講師として参加したことに驚き、それと同時にとても嬉しくもありました。受講してくれた子達もとてもいい子たちで、自分で教えていてとても楽しかったです。自分がいつも遊び感覚でやっていたことが知らぬうちに誰かのために役に立てて嬉しかったです。」(3年)

スライド 23

F 社会課題・地域課題へのアプローチ

- 八幡前プロジェクト
- すぐき漬けプロジェクト
- お米プロジェクト
- (パッションフルーツ・プロジェクト)
- (ウガンダ JICAプロジェクト)

スライド 24

八幡前プロジェクト

同志社中学校 × 叡山電車 八幡前駅プロジェクト

ABOUT VISION MEDIA PHOTO



八幡前駅プロジェクト #ロコアツ

スライド 25

**すぐき漬けプロジェクト**

「どうにかしたいのですが、、」  
 農家、栽培、プランティング、グルメ開発、ソーシャルムーブメント、インベーション、地域文化(祭り祭り)、動画発信、

**ZOOMでは白熱した議論**  
 「やめたくない」  
 「あっという間に1時間半経ったんや!」  
 「なんか、夕飯来いって言ううてはねん。ほっといで」  
 ご飯より学プロ。

すぐき漬けの食文化を絶やさないプロジェクト

TECH@DHS / 2020.6.23



スライド 26



スライド 27



スライド 28



第2分科会

スライド 29

**グッズ販売**



スライド 30

**LINEスタンプ**





スライド 37



スライド 38

### 学びプロジェクトの分類

A	教職員から生徒へ提供
B	社会(本物の大人との出会い)を提供
C	立場や国境を超えて交流
D	生徒から内容をリクエスト
E	生徒から生徒へ学びを広げる
F	社会課題・地域課題へのアプローチ

スライド 39

### 小さく初めてみただけ(無計画)の手作り

<b>八幡前プロジェクト</b> 職員→学校に訪問 生徒に有志募集(事務職員) ミーティング(実行・ミーティング) 国立交通省から助成金	<b>Passionフルーツ</b> 非常勤講師相談 ボランティア 話を聞きに行く 授業と学びプロジェクト企画	<b>ウガンダ ナッツプロジェクト</b> 偶然の出会いから小さく始める 交流
<b>すぐきプロジェクト</b> 専任から一学期に1回 1 授業前(授業、準備、実行) 2 授業中 ミーティング(実行・ミーティング) 制作の準備→授業中 ミーティング(実行・ミーティング)	<b>MCL絵本プロジェクト</b> 偶然の出会いから小さく始める 対面 オンライン交流 定期的なミーティング できることラフプラン定める	

スライド 40

### はみ出したものにこそ本質がある

- #1 立場や年齢や国境もこえる自由
- #2 呪縛から解放 フラットを感じ自分の小ささ(多少の経験)
- #3 共にスコアは不要になる

第2分科会

スライド 41

### 今週動き出した案件

#### 熊野筆

HOME > Calligraphy brushes > JAPAN BLUE Kumano brush "KACHIRO" Small Brush

JAPAN BLUE Kumano brush "KACHIRO" Small Brush

This SDGs product is made by collecting used plastic morning glory pots from elementary and junior high schools and upcycling them into the handles of Kumano brush.

The tips of the brushes are carefully crafted one by one using Kumano brush techniques, and are characterized by their excellent hold. The pentagonal handle, which symbolizes passing a message, is kneaded with natural indigo from Tokushima to express the Japanese Blue "KACHIRO". This product utilizes natural indigo from Tokushima to express the "KACHIRO" color (kachi-iro), a brown color, and can be purchased as a lucky charm or gift.

What is "KACHIRO" (brown)? Long ago, during the Sengoku period, warlords would wear indigo-dyed clothing under their armor in "kachi-iro" (brown) indigo, which was highly valued as a auspicious color that brought good luck and victory in battles, as well as the antibacterial and insect-repellent properties of indigo dye.

JAPAN BLUE Kumano brush "KACHIRO" was developed through a co-creation program between an SME Co., Ltd. and KOUJOU Co., Ltd. → [Click here](#)

スライド 42

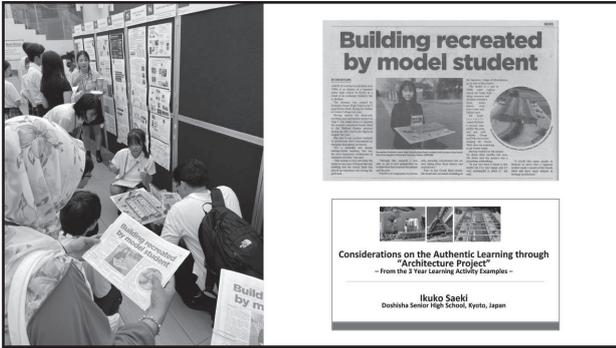
### 教育活動の作り方の根底の思想に埋め込みたい

## 野性的な学び

「授業」は、広く国民に〇〇を提供する力強いシステム  
 制約がきつい

授業外は、制約がないが、強制力はない

スライド 43



スライド 44

**考えていること**

- 【ヒト】いかにつながりをつくるか
- 【モノ】教材、題材
- 【コト】正課・正課外でモノとヒトが出会う
- 【カネ】助成金、個人支払い、会社のために

【モヤモヤ】費用、熱量×予定、参加者数×純粋度  
知識・スキル向上、英語×論文

スライド 45

**気づき**

なくなることも否定しない。  
継続ありきなら、授業のちからしかない。

探究のためにはではない。教員が、輝くには。教える職業を選んだ大人が、輝く。

授業外から出発した。しかし、授業が持つちからを再認識

授業で営業していいよ！放課後、営業していいよ！  
講演ではなく、営業活動として会社から許可をとってもらう

スライド 46

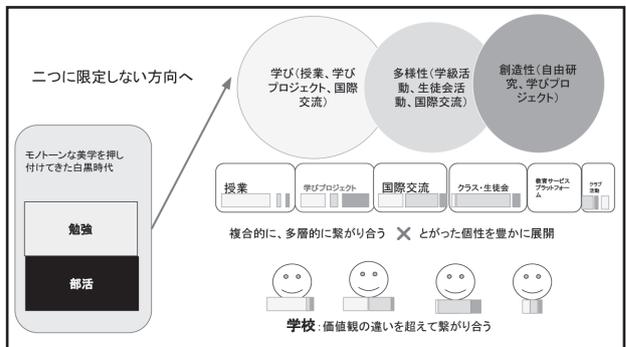
**つながるきっかけ**

～すでに足元に～

スライド 47



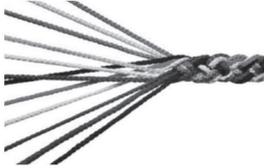
スライド 48



スライド 49

## 違いを超えて、他者とつながるちから 類的課題に向かう共同体へ

趣味や考えの違う人とつながる力  
 (同調圧力を美德とする場所では難しい)  
 ヒト・モノ・コトをつなげる  
 年齢、立場、国境をこえてアイデアを共有



スライド 50

### 直感を共有するブリッジ・コンテスト



Bridge Contest to share your ideas intuitively



モルタル・セメントを練る経験は未来のインフラや街づくりを考える貴重な経験となる

Nov 10 2018

未来の社会インフラを自分事として認識し、解決策の考案にコミットしていくための確かな経験

スライド 51

同志社中学校  
Doshisha Junior High School

資料請求  
進学アクセス





国交省の専門家からの講話、ドローン体験、高所作業VR体験



スライド 52



社会インフラ(守りのテクノロジー)



第2分科会

スライド 53

## あった問合せ) 国際交流と言えば英語科とはかぎらないのではないかと?

英語・同志社というイメージなのに実際そうでもない、どうしたいのか?

→新しい視点(技術・ものづくり)でつなぐ



三校がコラボ



ココロミユ

スライド 54

NUEVA SCHOOL ものづくり授業交流



おもしろさは国境を超える

NOVA SCHOOL



西海岸での展開

GLOBE+

課題解決型学習、世界はこの学校に注目する「ハイテク・ハイ」が日本にやってきた



NUEVA Innovative Learning Conference



スライド 55

東海岸での展開 : 現地で知り合ったDaniel博士のおかげで、



**Harvard University**

INTERNATIONAL STEM PROJECT\_3



Daniel博士(Harvard大学)のサイエンスデモンストレーション

exhibition2 exhibition laboratory Museum



**MIT**

International STEM Project 5



Robotics workshop at MIT museum

MIT Museum MIT building

スライド 56



同日中 午のプロジェクト

**Space HOUR**

宇宙をフィールドに活躍されている方々のレクチャー 共に宇宙の未来を再認識しよう!

DAY 1 2021年6月18日 14:00-17:00 本村博夫 氏 (パナソニック代表取締役) 江東区 大塚南大(東京) 理工学部 理工学系 宇宙工学専攻 教授

DAY 2 2021年6月19日 14:00-17:00 岩井行成 氏 (三菱電機) 東京都 三菱電機 宇宙システム研究所 所長

DAY 3 2021年6月20日 14:00-17:00 高野浩一 氏 (宇宙航空研究開発機構) 東京都 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 所長

同日中(6月18日) 東京大学 宇宙航空研究所 所長 高野浩一 氏

同日中(6月19日) 東京大学 宇宙航空研究所 所長 高野浩一 氏

同日中(6月20日) 東京大学 宇宙航空研究所 所長 高野浩一 氏

記事

<https://doi.org/10.1186/s13067-021-00200-1>

国際宇宙ステーション運用管制官の仕事紹介

宇宙飛行士・国際宇宙ステーションを学ぶ「宇宙」運用管制官



2021年6月18日  
宇宙航空研究開発機構(JAXA)  
JAXA フライアウェイ 東京 国立科学博物館

スライド 57

テラススペース株式会社



北川 貞大  
代表取締役 就任

April 26, 2021

なぜ今お寺を宇宙を作るのか～  
テラススペースが宇宙寺院プロジェ

技術×宗教  
宇宙



スライド 58

あった問合せ)

**ソニー KOOVを中学校でも..**

マスコミ、なにかできないか?

→新しい視点(技術・ものづくり)でつなぐ



テーマ  
「SONYが中学の技術の教材  
で全国展開するとき、有効な学  
習コースを提案せよ!」

スライド 59

中学の授業にSPRESENSE™がやってきた!



制御した目のLEDテープが人工衛星を想像させてくれる本物感



スライド 60



Space Hour

ソニー 宇宙ワークショップ 8/7(月)

10:00-15:30

ソニー 宇宙ワークショップ

申し込み



JAXA Tour

2021年8月X日( ) - X日( )

申し込み

スライド 61

**あった問合せ)**  
**JICAからプランを見てほしい**  
**何かできないか？**

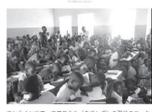
授業外という枠で  
 →新しい視点(技術・ものづくり)でつなぐ

JICA 宮本専門家より講演

JICAプロジェクト  
 農業専門家からの講義引き出す。  
 現地ウガンダ学校との交流

ウガンダの学校と国際交流できる学びプロジェクト

専門分野である農業で世界へ貢献したい

スライド 62

**あった問合せ)**  
**台風で倒れた丸太ある**

授業外という枠で  
 →新しい視点(技術・ものづくり)でつなぐ

板づくりへ  
 SDGs 本物感 森林・海  
 ショーケースの教材から野性の教材

製材という本物の体験を通して、林業の未来、森や海の自然の未来へと思いを馳せることが可能になるのです。上面だけのSDGsの取り組みにならないよう、授業設計や学校デザインを考えています。

ところで「楔を打ち込む」という言葉を聞いたことがありますか？



スライド 63

**あった問合せ)**  
**漬物の消費量の落ち込みどうにかできないか**

社会を変える、すぐき漬けプロジェクト

賀茂川  
 すぐき畑について

授業という枠で  
 授業外という枠で  
 →新しい視点(技術・ものづくり)でつなぐ

すぐき漬けプロジェクト




スライド 64

**あった問合せ)**  
**過疎化でどうしようもない。パッションフルーツでどうにかできないか**

授業枠で  
 →新しい視点(技術・ものづくり)でつなぐ

栽培・マーケティング・ブランディング・栽培の意味をもたせる

パッションフルーツの商品アイデア

パッションフルーツ栽培のアイデア  
 パッションフルーツの活用アイデア  
 シンクなども取り入れることで、パッションフルーツの魅力を最大限に引き出すことができます。




第2分科会

スライド 65

**あった問合せ)**  
**子ども図書館へ寄付してほしい**

フィリピンMCLお米プロジェクト

オンライン  
 国際交流  
 絵本  
 水田クラウドファンディングへ  
 次は栽培技術へ繋がるのではないかと  
 →新しい視点(技術・ものづくり)でつなぐ



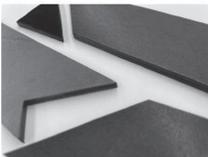
スライド 66

**対話から生まれる)**  
**修理業者の方との世間話から**

プロから学ぶ製法加工1&2

コミュニケーションバズルの製品づくり1





スライド 67

**建築の理論と実際**  
—12名の有名建築家—

ざっくばらんな  
リレトーク

毎週2人の建築家がトークでつなぐ建築の世界

**建築・学びプロジェクト**

シリーズ 第1回 4/12 (月) 18:30-19:30 zoom

オンライン人数制限なし！お申込みはQRコードから  
—建築家の暮らしから学ぶまで—

JIAの建築家が「国中学びプロジェクト」にやってくる！

建築は感動だ！建築って面白い！建築発見しよう！

1.ノック→  
建築事務

2.プレゼン→  
建築家

3.ボランティア  
で、出演

スライド 68

**学外の専門家とつながる**

プログラミングの世界へ

「ものづくりの  
プロセスを知る」  
3Dプリンタ・プログラミング

プログラミング教室のビジネス展開の場としての校舎  
利用

生物館の新しいビジネス立ち上げのきっかけとして